

海や川に親しみながら環境について考えよう B&G海洋環境教室

まとめ



「水に賢い子供を育む年間活動型プログラム」は、B&G財団が設立30周年を迎えて全国の海洋センター及び海洋クラブを拠点に展開する重点事業の一つですが、年間を通じて取り組むのは瀬棚が初めて。昨年より、瀬棚小学校の総合的な学習の時間の取り組みとして4年生を対象に「B&G環境教室」としてスタートし、子供たちは地元の海や川に親しみ、また教材として、体験や実験を通じて海や川の環境問題やライフセービングなど、水に関する知識を広く身につけることを目的にさまざまなプログラムに取り組んできました。

水に関する知識を身につけよう

専門家に聞いて疑問を解決しよう

5月の第1回目の授業から4年生を対象に始まった「B&G海洋環境教室」は、水辺での活動の注意点や救命胴衣の正しい着用法などの「安全学習」。トラップ（わな）づくりで川の生き物を捕獲し、生態系を調べる「生物と環境学習」。また、海（磯）に住む生物や潮位、磯の生物観察などによる「海と川の生態系の学習」。特に「ヤマメとサクラマスの関係」については、テーマとしてさまざまな分析調査などを行なっています。河川生活期の幼魚をヤマメと呼び、海で育つのはサクラマス…。「なぜ呼び名が違うのか？」や「なぜ大きさが違うのか？」など、生活環境やエサに違いなどを分析し、疑問を解決する方法や、国語の時間で「聞く・話す」を学んだら、3年生へのプレゼンテーションなどを行いながら今までの学習を進めてきました。



3月1日には最後の報告会を開催

2月9日と10日には、各専門家の皆さんを講師に招き、今まで学んだことで、疑問点や不明な部分を聞いてみました。

講師としてお越しいただいた開発局今金河川事業の後藤所長さんに、「馬場川や後志利別川の特徴と水生生物について、川の環境を守るためにすべきこと」や、水産技術普及指導所専門普及員の伊勢さんには、「磯の生き物と食物連鎖、サクラマスの生態について」、飲食店経営の工藤さんには「釣り、魚の食べる餌について」など、子どもたちは調べて疑問に思っていたことなどを聞きました。

特に、磯の生き物と食物連鎖、そして、サクラマスの生態については、なぜヤマメが川に残るものや海に下るものがあるのか、海藻の役割、水の循環など、資料映像などを使って詳しく説明していただき、子どもたちの疑問も解決したようです。

3月1日には、これまでのまとめの報告会を行いました。この日は、父母なども見学できる公開授業で、また、17年度実施予定の3年生へのプレゼンテーションを兼ねての報告会となりました。

これまでの学習をおさらい

1 水辺での注意点などを学習



2 川の生態系調査を学習



3 着衣泳とライフジャケットの学習



4 ライフセービングなどを学習



5 磯の生物を調査



6 3年生に学習発表



7 後志利別川の水質調査を実施



8 専門家に話を聞いてみよう



一年間を通じての子どもたちと先生の感想



伊藤汐里 磯でカニやイソギンチャクを見つけたりしたのが楽しかったです。トラップで魚が捕れたことが嬉しかったです。海藻標本作りをしたとき、海藻を並べるのが難しくて大変だったけど、出来上がりは結構上手く出来たから良かったです。総合学習でいろいろな勉強をして面白かったです。



小池奈穂香 トラップを作ったとき、ペットボトルを切ったり、穴を空けたりするのがちょっと怖かったです。スノーケリングは、ウニとか魚を見れたけど、寒くて少し泳げなかったことが残念でした。でも魚を見て良かったです。レスキューチューブでは、海から砂浜まで引っ張って行くのが大変でした。



京谷美槻 トラップに魚は入らなかったけど楽しかったです。カヌーでは転びそうになっても転びませんでした。中源さん（海上保安署次長）にカヌーを教えてもらいました。カヌーは楽しかったです。ライフセービングのやり方も良く分かりました。スノーケリングは、磯の中でいろいろな生き物がいるんだと思いました。

前田浩次郎（4年生担任）



子どもたちは一年間、瀬棚の海・川と向い合い、そして実際に体験を通じてさまざまなことを楽しみながら学べたと思います。この学習の最中にB&G艇庫に行き、先生よりカヌーが上手になった子、川でウキゴリを取ってきた子、釣りに興味を持ち始めた子など、瀬棚の海・川へ向かい合い始めました。瀬棚町にある自然に触れ合う今回の機会を作って頂いたスタッフの皆さん本当に有難うございました。

たくましく生きる せたなっ子へ…

これまで、4年生の取り組みを広報で8回に渡ってお知らせしてきました。最初の頃は「プールで泳げても、海は怖くて泳げない」、「瀬棚の海産物がどこに生息し採れるのか知らない」など、テレビやゲームの内容は知っていても、意外と身近な海や川、そして瀬棚のことを知らない子どもたちが多い傾向にあります。

これまでの体験、調査などを通じ、子どもたちには「楽しさだけではなく安全への意識向上」「自分たちを取り巻く自然の豊かさ再発見」「さまざまな命の連続への気づき」「不思議や疑問を追究していく資質の向上」「実践・行動をしてみても身につく知識」などが身についたと思います。

保護者からの声としては「瀬棚町の特色を生かした学習だ」、「子どもが自然に興味を持つようになった」、

「命を守るための学習があるのが良い」といった反響の反面、「都市部に負けない学力がつくのか」、「基礎基本を確実に身につけてほしい」、「海での学習は危険が伴うのでは」という声もありました。

今後の課題としては、子どもたちの発達段階を踏まえた各活動の教育課程への位置づけや次の学年へつなぐための実践記録の充実など、今年度のプログラムを振り返り、より充実した内容へ発展させていきたいと思っています。

最後に、毎年ニュースなどで報道される子どもたちの水辺の事故。しかし、水辺は危険だからただ単に遠ざけるだけではなく、いろいろなキーワードから瀬棚の特色を活かし「たくましく生きる力」を育んでもらいたいと思います。

【担当：教育委員会事務局 平山】